

ペットを守るためにそなえよう

災害時にペットを守ることができるのは飼い主だけです。
避難する際は、飼い主の責任のもとペットと一緒に避難する「同行避難※」が原則です。
※避難所で、人とペットが同一空間で居住できることを意味するものではありません。

●事前に行っておくこと

- 飼い犬の登録と狂犬病などの各種予防ワクチンを接種する。
- 迷子札やマイクロチップを装着し、飼い主を明らかにしておく。

●日ごろから心がけておくこと

避難所は動物が苦手な方も利用します。普段から健康管理やしつけを行うことが重要です。

- 予防接種を受けさせ、健康な状態を保つ。
- ノミやダニなどの寄生虫を予防、駆除する。
- ケージやキャリーバックに慣らしておく。
- 不必要に吠えないようにしつけをする。
- 人や他の動物を怖がったり、攻撃的にならないよう慣らしておく。
- 「待て」、「お座り」、「伏せ」などのしつけをする。
- 事前に複数の一時預かり先を探しておく。

例) ペットが慣れている親戚・知人、動物病院、民間の施設（ペットホテル）など



●ペット用の避難用品の準備

避難所で当面の間必要となる用品を日ごろから用意し、非常用持出品と一緒に持ち出せるようにしておきましょう。

- 療法食、薬
- ペットフード、水（少なくとも5日分[できれば7日分以上]）
- ケージやキャリーバック
- 予備の首輪、リード（伸びないもの）
- トイレ用品、ペットシーツ、排せつ物の処理用具
- 食器
- ペットとの写真



●避難所での注意点

避難所では、飼い主が責任をもってペットの世話をします。

- 避難所運営組織と飼育スペースや飼育のルールを決めましょう。
- 飼い主同士が協力して助け合い、飼育スペースを管理しましょう。
- 飼育スペースは定期的に清掃を行い、臭いの発生防止に努めましょう。

メモ 身体障害者補助犬への理解

目や耳、手足に障がいがある方と同伴する補助犬（盲導犬、聴導犬、介助犬）は、要支援者の支援として同じ居住スペースに避難することができます。
ただし、他の避難者がアレルギー症状を引き起こす可能性がある場合には、動線が交わらないようにするために、距離をとることや別室の用意を考えましょう。



地域ぐるみで防災対策をしよう

大規模な災害が発生したときは、行政だけで対応することは困難です。
被害を最小限にとどめるには、地域のみなさんが協力しあう「共助」が重要となります。
いざというときに対応できるよう、自主防災組織の活動に積極的に参加し、地域ぐるみで災害にそなえましょう。

●自主防災組織とは

災害による被害を予防し、軽減するため地域の人々が自主的に防災活動をする組織です。

●自主防災組織の主な活動

平常時の主な活動

防災訓練

- 情報伝達・収集訓練
- 初期消火訓練
- 救出・救護訓練
- 避難所開設・運営訓練
- 避難行動要支援者支援訓練



災害時の主な活動

初期消火活動

- 消火器・バケツリレーなどによる初期消火

救出活動

- 負傷者や倒壊した家屋などの下敷きになった人たちの救出・救助活動

救護活動

- 負傷者の手当・救護所への搬送

情報の収集・伝達

- 災害に関する情報の伝達・収集
- 被害状況のとりまとめ
- 住民の安否確認



防災まちあるき

- 各家庭の防災用品の点検呼びかけ
- がけなど危険箇所の確認
- ブロック塀の点検

防災資機材の整備

- ヘルメット、消火器、発電機、テント、ハンマー、ジャッキ、防水シートなどの資機材の整備・点検



自主防災組織の支援について

福井市では、自主防災組織の育成を図るため、防災資機材などの整備や普及・啓発活動を対象とした補助制度を設けています。

福井市防災ステーション ☎20-5161